

# 好きなもの

竹中ナミ

①娘、マキ

39年前、重い脳の障害を持って授かった彼女の存在は、すべてのパワ―の源である。

この障害が治るものではないと知ったとき、私の好奇心は「なぜ？」に向かった。図書館に行ったり、医者に尋ねたりして、どうしてこのようになるのかを調べた。例えば、皮膚にとどこどこ白い箇所がある。娘のような障害では、そのような症状が現れることがあるという。それは皮膚と脳が同じ外胚葉（はたぎ）から分化してできるから、というのだ！

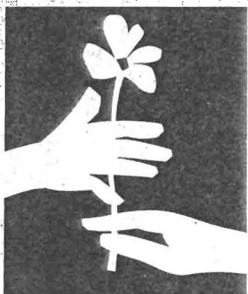
マキは私の知的好奇心をいつも刺激してくれる。

②歌

マキが泣き叫ぶと、抱っこして揺らせばびたりと止まった。だから、団地の階段を5

階から1階まで昇り降りしたり、エンジンをドゥドゥいわせて一晩中車の中にいたり（これはご近所からえらいメーワクやと言われました）。

あるとき、マキはリズムが好きなんだと気付いた。そこで初めての贈り物としてリズムボックスをプレゼントした。



次にリズムだけではつまらんと、歌もつけ始めた。おんぶして有馬の山の中を散歩したこともあった。第一、歌うとスカッとするのだ。

最近の楽しみはバンド活動だ。その名も「ナミねえバンド」。ライブで歌うのはシャノン、ポップス、昭和歌謡、ジャズ。4年前、還暦を記念

して、プロのミュージシャンが集まってくれたのが始まりだ。今や「しゃべれば上沼恵美子、歌えば和田アキ子」と言われる（笑）。

③乱読

読む物がなければ電話帳にも手を伸ばした。小遣いのほとんどは本に消えたが、勉強は嫌いだ。だがマキが生まれて、初めて知りたいことができた。初めて「この知識がほしい」と自覚的に書籍を求めた。

私の人生のさまざままできごとの入り口は全部、マキだ。彼女がいたから今の私がある。障害者（ハンディキャップ）のために、ではなく、彼らが社会のために何かをなせるように、私は活動している。

最近、手を握ると、私の指をぎゅっと握り返してくれるようになった。彼女にもうメロメロである。

（社会福祉法人理事長）